

2016 年度後期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 29 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語Ⅰ	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語Ⅱ	竹野内 倫子	演習	2
3	国語表現法	宮川 久美	講義	3
4	人権と差別	馬越 かよ子	講義	4
5	奈良の伝統行事	奈良まほろばソムリエの会	演習	5
6	フランス語Ⅱ	浅野 友子	演習	6

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
7	医療的ケアⅠ	水野 尚美	講義	7
8	介護保険実務	森永 夕美	講義	8
9	居住環境整備の技法	北口 照美	演習	9
10	高齢者に対する支援と介護保険制度	平岡 毅	講義	10
11	こころとからだのしくみⅠ	小槻 智彩	講義	11
12	こころとからだのしくみⅢ	森田 婦美子	講義	12
13	こころとからだのしくみⅣ	畑下 芳史	講義	13
14	コミュニケーションの基本	小木曾 真司	講義	14
15	社会福祉施設経営	酒井 宏和	講義	15
16	生活支援技術Ⅱ	武田 千幸	演習	16
17	セラピー概論	竹花 正剛	講義	17
18	セラピー概論	村本 早希	講義	18
19	低所得者に対する支援と生活保護制度	尾崎 剛志	講義	19
20	発達と老化の理解	吉田 裕司	講義	20

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
21	運動生理学	松本 範子	講義	21
22	食品の官能評価・鑑別論	池内 ますみ	演習	22
23	生理学実習	三浦 さつき	実習	23
24	専門調理(製菓実習)	箕山 なおみ	実習	24
25	フードコーディネータ論	志垣 瞳	講義	25
26	臨床栄養学	毛受 真由美	講義	26

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
27	イラスト・画像処理 I	井上 彩	演習	27
28	カラーコーディネータ演習	中村 妙子	演習	28
29	経理実務 II	谷村 真理	講義	29
30	ゼミナール II (ビジネスキャリア)	上田 利博	演習	30
31	ビジネス文書 I	吉村 司	講義	31
32	プロダクトデザイン II	杉山 正和	演習	32
33	ホスピタリティ論	碓 ともみ	講義	33

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
34	音楽基礎演習Ⅱ(ソルフエージュ)	吉田 直子	演習	34
35	音楽基礎演習Ⅱ(理論)	中島 倍代	演習	35
36	音楽Ⅱ	奥田 尚子	演習	36
37	音楽Ⅱ	玉井 奈摘	演習	37
38	音楽Ⅱ	本間 晶子	演習	38
39	音楽Ⅱ	山下 玲子	演習	39
40	音楽Ⅳ	大西 有紀	演習	40
41	音楽Ⅳ	宮田 眞理	演習	41
42	教育方法の理論と実践	杉山 晋平	講義	42
43	こどもの食と栄養	須谷 和子	演習	43
44	障害者福祉	李 仙恵	講義	44
45	小児保健B	安永 龍子	講義	45
46	児童家庭福祉	中西 真	講義	46
47	総合演習(スポーツ)	杉島 尚徳	演習	47
48	保育(環境)	藤田 悦代	演習	48
49	保育相談支援	別所 崇	演習	49
50	保育(表現・身体表現)	大高 千明	演習	50
51	保育(表現・幼児造形)	増井 啓子	演習	51

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8305c **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 15名

回答者内訳	学年				学科・コース					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	14	-	-	1	-	-	-	15	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価					
		学生の評価平均		■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.40		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 6.7%	90分程度 -	60分程度 6.7%	30分程度 26.7%	ほとんどしていない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 6.7%	90分程度 -	60分程度 6.7%	30分程度 33.3%	ほとんどしていない 53.3%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.13		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 26.7%	やや高かった 46.7%	適切であった 26.7%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.80		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 40.0%	注意していた 26.7%	ある程度注意していた 33.3%	あまり注意していなかった -	全く注意していなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.80		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.87		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.07		■				

1 授業の概要、特徴等

テキストは、基本文法の解説と練習、そして英文読解とリスニング練習が含まれたもので、初級・中級者のための総合的な英語力の向上を目指すものを使用した。中・高校で既に学習してきている基本的な文法を再度、体系的に整理、復習し、その確認文法を活用する形で、近年の話題や一般知識、人物について英文で知見を広げる楽しさと、継続的英語に触れる語学学習習慣を目指していた。また、話すことのためには聞ける必要があり、ディクテーションをほぼ毎回課した。

2 アンケート結果に対する見解

学生たちはかなり誠実に授業に臨んでいたが、そもそも各人の英語レベルに開きがあり、また、課題プリントは授業の予習・復習用に準備したが、テキストに沿った自主的な学習をする余裕はあまり見られなかった。他科目に時間を奪われ、英語能力の必要を感じないのがおそらくその原因でないかと思われる。難易度については、文法は既習内容の再整理となっているので、英文読解やそれについて書くことへ発展できればよかったと考えるが、苦手意識をもって分からないのではなく、一步でも着実に成果を蓄積する姿勢がもてるとよいと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ディクテーションを通して、「聞く」あるいは聞き取れることを積み重ね、語学学習習慣と共に、口語英語特有の音的变化を取り上げた。また、コミュニケーションの始まり、かつベースとなる文化リテラシーの向上が期待できた。単位認定は、理解度60%、平常点40%とした、学生の英語力、英語学習能力に開きがあるため、評価は個々の伸びと態度を大いに考慮した。

4 授業改善の方法

テキストの構成は文法の再確認の後、250字程度の英文を対象にしている。パッセージの量については、これまで2段階で減らしてきているため、これがある意味、限界とも取れる。さらに平易なものを提供しなければならないともとれるが、それでは理解度の高い学生には逆の不満が残ろう。授業内展開によるレベル別のさらに細かな対応が当面の課題となる。英文全文の間違いのない日本語訳が、目標ではないというそもそもの認識(あるいは英語を英語で理解する方法などに馴染むこと)と、英語力の社会的要請を真摯に受け止め、日々の努力に向えるよう、英語への切り口を工夫していきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 竹野内 倫子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8310a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 24名 **回答者数** : 23名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	23	-	-	-	-	2	1	20	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.65	■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 - 90分程度 8.7%	60分程度 -	30分程度 34.8%	ほとんど していない 56.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 - 90分程度 8.7%	60分程度 -	30分程度 26.1%	ほとんど していない 65.2%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.61	■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 17.4%	やや 高かった 30.4%	適切 であった 34.8%	やや 低かった 13.0%	非常に 低かった 4.3%	無回答 -
授業の 進め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.26	■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 8.7%	注意 していた 60.9%	ある程度 注意 していた 21.7%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た 8.7%	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.09	■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.13	■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.26	■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

テキストの内容を映像にしたDVDを見ながらテキストの穴埋めをし、答え合わせの後、その日のターゲットとなる文法項目の解説を行った。その後、テキスト文(会話)を学生たち自身で考えたものに変えたオリジナル文を作らせ、ペアで練習させ、次週発表させた。また、会話文に関する理解度を確かめる問題や文法に関する穴埋め問題、英作文、長文問題などにも取り組ませた。日常生活で使用する英語の基本表現も練習した。

2 アンケート結果に対する見解

アンケートには、説明が分かりにくい、日本語訳が知りたい、発表までの準備期間が短い、学生が理解しているか確認しながら授業を進めてほしいなどの意見があった。日本語訳が付いているテキストに慣れている学生は、毎回日本語訳が伝えられるのではなく英文法をイメージでとらえる授業スタイルにとまどったのだと考えられる。また、授業前にテキストの文法項目に目を通しておくように伝えていたが、怠っている学生が多かったことも理解不足に繋がったと考えられる。発表に関しては、前期担当の先生の進行速度に合わせていたが、授業中に練習時間が十分あったとは考えられない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績認定は、定期試験40%、授業態度30%、小テスト10%、発表20%で行った。試験は持ち込み不可であったが、試験に出る場所を細かく学生に示したので、試験前にきちんと復習すれば決して難しすぎる試験ではなかったはずである。テキストに載っている会話文すべての日本語訳が伝えられた訳ではないのでもやややが残った学生はいたようだが、自分たちの言葉に変えて、(授業内ではあるが) 実際使ってみることで生きた英語を使う機会が持てたことは、学生たちが実生活でも使える実感を持つことができたと思う。

4 授業改善の方法

日本語訳を伝えなかったことによって、しっかりと説明がなされなかったと捉えられたことに関しては、私の授業方法とその目的(英語→日本語に訳す、からの脱却)を第一回目の授業でしっかりと説明する必要があった。また、英文法のイメージを大切に授業だが、やはり細かいニュアンスを知りたい学生もいると思うので、授業後に確認できるように訳を書いたプリントを配布するなどの配慮もする必要がある。また、学生が理解できているか授業中確認することも必要である。発表までの準備期間が短いことに関しては、余裕をもったシラバス作成が必要であるが、発表までに一週間準備期間があったのにも関わらず学内や家庭で練習をしてきた学生が少なかったことは残念である。学生自身の意識を変えることも必要である。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 宮川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8110cd **授業形態** : 講義 **受講者数** : 56名 **回答者数** : 44名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	43	1	-	-	14	24	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.93		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.3%	90分 程度 2.3%	60分 程度 6.8%	30分 程度 31.8%	ほとんど していない 56.8%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.3%	90分 程度 2.3%	60分 程度 9.1%	30分 程度 34.1%	ほとんど していない 52.3%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.23		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 15.9%	やや 高かった 38.6%	適切 であった 45.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.98		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 22.7%	注意 していた 47.7%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意し てい なかつ た 4.5%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.65		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.07		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.41		■				

1 授業の概要、特徴等

日常の言語表現(口頭表現および文章表現)において、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように表現できるようになることを目指している。規範意識を持ち、聞き手を尊重した表現を身につけるよう、ワークを行い、その都度不適切な表現を是正し、自然に正しい読み書き、口頭表現が身につくように工夫している。

2 アンケート結果に対する見解

ほぼじめに授業に取り組んだと思われる。しかし、たとえば、待遇表現にしても、仮名遣い・送り仮名についても、規範意識に欠け、なぜそうなのかを説明してもあまり聞きたがらず、マニュアルだけを聞きたがる。それでは応用が利かないので多少難しくても理論の説明部分も聞いてほしい。一人の学生の質問などに答え、あることを話題にしていたことに対して、「あとの人はほっとらかしだった」とする意見があった。「ほっとらかし」のではなくて、一人の気づきに対して全員に聞いてもらいたい内容だったからこそ話題を敷衍していたのであって、ほかの人たちが自分には関係のない話題だと感じたことは、言葉に対する興味不足だと思う。ただ、そのように思わせたことには担当者の説明不足もあったと思うので、全員に興味を持たせる工夫をしたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

繰り返しワークをし、提出してもらったものを添削して返却し、小テストを行い、それも添削して返却しているが、なかなか、完璧なところまでは到達しない。5回の小テストで60パーセント以上正答すれば、単位認定した。

4 授業改善の方法

できるだけわかりやすく、例を挙げて説明する。説明したことは直ちに実際にワークなり、ロールプレイ等でやってみて身につけさせるようにする。提出させたワークは次週にフィードバックしていたが、即時のフィードバックの方が効果があると思われるので、各自で間違いを自ら発見させるようにし、即時フィードバックするようにする。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105cd **授業形態** : 講義 **受講者数** : 70名 **回答者数** : 62名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	62	-	-	-	-	-	61	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.18		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 4.8%	60分 程度 3.2%	30分 程度 19.4%	ほとんど していない 71.0%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.2%	90分 程度 1.6%	60分 程度 3.2%	30分 程度 21.0%	ほとんど していない 71.0%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.26		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 9.7%	やや 高かった 27.4%	適切 であった 61.3%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.05		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 25.8%	注意 して いた 35.5%	ある程 度注 意し てい た 32.3%	あま り注 意し てい な かつ た 6.5%	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.06		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.98		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.13		■				

1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、基本的な視点や個別課題の両方からアプローチし、人権問題に対する理解と認識を深める。授業内容や授業で気づいたこと等をコミュニケーションカードにより提出させ、次回に学生たちの気づきの内容から特徴あるものを紹介して、他者の考えから新たな気づきを得て、視野を広げさせる。また、他者との会話やグループ討議を意見表明の場とするとともに討議の内容を発表し、他者からの評価を受ける。

2 アンケート結果に対する見解

表面的な知識だけでなく、詳しく学ぶことで、様々な人権について深く知り、差別や人権問題を身近な問題として捉え、先入観や固定観念など差別を生み出すメカニズムについても気づき、本授業が自分の将来に役立つと考えるなど、目標とする成果が出ていると思われる。一方、これまでに人権や差別については既習済みとする学生に対して、身近な問題に人権意識の高揚を図る姿勢を培えるよう工夫が必要であると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深め、人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会が何をすべきかを考察する力を身に付けて実践的な行動に踏み出せることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度20%、課題及びコミュニケーションカード20%、科目修了レポートとまとめ発表60%により総合的に評価して、単位認定する。

4 授業改善の方法

他者との対話やグループ討議と発表、またクラス全員の前での絵本の朗読を通して自分の考えを伝える力のトレーニングなど、授業に様々な手法を取り入れることにより、自尊感情を育み、人権問題を身近なこととして捉えるとともに、差別を生み出すメカニズムに気づき、自らの意識や行動を考えさせることができたと思うが、さらに、表面的な知識だけでなく、身をもって行動できるような浸透力のある授業を工夫するとともに、取り入れた授業の手法についての趣旨をより徹底させたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 奈良まほろばソムリエの会 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 29名 **回答者数** : 24名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	22	-	2	-	-	15	-	8	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 4.2%	30分 程度 8.3%	ほとんど していない 87.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 4.2%	30分 程度 8.3%	ほとんど していない 87.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.79		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 20.8%	やや 高かった 20.8%	適切 であった 50.0%	やや 低かった 4.2%	非常に 低かった 4.2%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.29		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 37.5%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった 16.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.13		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.04		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	2.83		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

歴史ある奈良で学生生活を送ることになった学生に対して、奈良まほろばソムリエの会のメンバーによりオムニバス方式で奈良の伝統行事を学んでもらった。奈良は、由緒ある社寺や世界遺産などの歴史遺産の宝庫であり、長く継承されてきた伝統的な文化・芸術・芸能が多く残されている。奈良の伝統行事を学ぶことにより、学生自身が身近に奈良の魅力を理解し、奈良の伝統行事を家族や友人、知人に発信できるよう授業を行った。

2 アンケート結果に対する見解

奈良の伝統行事は非常に多くあり、その良さについては若い学生ではなかなかその理解が困難という面があったことを示している。「奈良の観光課題や奈良の伝統行事をどのように発信すればよいか」といったワークショップやグループ作業は期待以上の成果が見られたが、「お水取り」、「茅原の大トンド」などの伝統行事の歴史的背景などを学ぶ授業は、興味を示す学生も少なく、講師の期待値とのギャップが大きいことを示している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業への出席はもちろんのことではあるが、毎回の授業終了時に理解確認のための小テストを実施した。グループワーク授業については、成果物である作品の評価や発表内容を点数化した。また、この授業の集大成として、実際に春日若宮おん祭りを見学(見学できない場合は奈良国立博物館にて学習)してもらい、その感想をレポート提出させた。単位認定はレポート内容や理解小テストを基に実施し、一定の水準には達した。

4 授業改善の方法

奈良の伝統行事について紹介する行事を絞る。いかにしてこの行事が伝統となり、今まで継承されてきたのかといった歴史的背景を理解するための座学は最低限必要であり、授業毎の小テストは引き実施する。しかしながら、授業に対する魅力度・関心度アップのため、グループワークの時間を増やし、奈良の伝統行事を守っていくための課題発見力や課題を解決などの提案力を学生が身に付けるよう改善したい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : フランス語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8335 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	6	-	-	-	1	1	-	4	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.67		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.33		■				

1 授業の概要、特徴等

フランス語Ⅰに引き続き、会話表現を練習しながら初級文法の後半を学ぶ。前期の学習の積み重ねの上に成り立つ授業であるので、受講生はフランス語Ⅰの単位を修得している者のみに制限している。受講生はある程度フランス語にも慣れてきているので、自由作文をできるだけ行い、自由な発想を大事にして、自発的な表現の幅を広げるように努めた。

2 アンケート結果に対する見解

前期に引き続き、受講生が最後まで意欲をもって真面目に取り組んでくれたことに助けられ、密度の高い良い雰囲気の授業を行うことができた。このことについて、心より感謝している。少人数であったことで、個別指導に近い形で授業を進めることができたのも幸いであった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価については、ほぼ毎授業に小テスト、課題等を課し、提出物の評価を積み重ねることによって最終的な評価とした。授業で学んだことが理解でき、応用できるかどうか、さらに、自分で考え、言いたいと思う内容を、フランス語で適切に表現できているかどうか、が評価の基準となる。

4 授業改善の方法

良い授業を行うには、学生が自発的に自ら問いを見つけ、教員がそれに答え、さらに次の段階に導くという状況が生まれなければならない。今回は自由作文を取り入れたので、学生が言いたいことの意味をまず明らかにし、それに沿うフランス語の表現を工夫するという手順が必要となる。教員としては、それぞれの過程に寄り添い、学生の発想に合わせて指導を行うことのできる度量の大きさが大事であると感じた。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 水野 尚美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 医療的ケア I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1570 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 11名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	11	-	-	-	11	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.82		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 18.2%	60分 程度 18.2%	30分 程度 27.3%	ほとんど していない 36.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 18.2%	60分 程度 27.3%	30分 程度 18.2%	ほとんど していない 36.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.55		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 36.4%	やや 高かった 45.5%	適切 であった 18.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.91		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 63.6%	注意 していた 27.3%	ある程度 注意 していた 9.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.18		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.27		■				

1 授業の概要、特徴等

医療的ケアを行う際の、人間の尊厳を遵守し、倫理観の確立と医療行為に関する多職種との連携を理解する。また、医療的ケアにおける身体の解剖生理等、基本的知識を学ぶ。

2 アンケート結果に対する見解

医療的知識を確認する時間として、以前より映像資料を多く取り入れたが、それでも専門用語を詳細に確認する時間をとることができず、それが⑩の回答の低さにつながったと思われる。ただ、今年度は、課題提示を少なかつたにもかかわらず、事前事後学習につながる勉強時間が全体平均よりも高かったのは、前述した授業内で理解できなかった専門用語などを確認するための時間につながっていたのではないかと考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生全員が授業目標を達成できているとは言い難い。成績評価や単位認定については、授業点や小テストを含めた筆記試験の点数などをもとに、厳正に評価した。

4 授業改善の方法

医療的ケアⅡも含め、授業内容を整理し、項目ごとに詳細な授業時間がとれるようにしたいと考えている。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護保険実務 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1590 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	5	-	-	-	5	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 40.0%	やや 高かった -	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 80.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.25		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.80		■				

1 授業の概要、特徴等

介護保険事務士の資格取得のための科目である。介護保険事務を行うに必要な知識と計算方法の実践を行う。介護保険制度をお金の方から見る事ができる科目である。最期は認定試験もあり、実践的な科目である。

2 アンケート結果に対する見解

日頃、計算問題とかをする授業が少ないため、やや授業のレベルとしては高いと感じられたかもしれない。また、サービスコード表など見慣れない数字の一覧表に戸惑ったかと思う。資格免許状がもらえることで、将来の役に立ってくればありがたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

今回、初めての開講であったが、認定試験に全員合格できた。

4 授業改善の方法

授業としては、計算に慣れるために、演習問題する機会を増やす。また、サービスを理解していないことが多く、介護保険制度そのものをしっかり理解していないとその説明に時間を取られるので、学科の「高齢者に対する支援と介護保険制度」を先に履修し終えているスケジュールに変更する。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 居住環境整備の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1325 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	15	-	-	15	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.7%	90分 程度 13.3%	60分 程度 40.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.7%	90分 程度 26.7%	60分 程度 20.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 26.7%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.13		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 46.7%	やや 低かった -	非常に 低かった 6.7%	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.07		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 13.3%	注意 していた 80.0%	ある程度 注意 していた 6.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.33		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.87		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.20		■					

1 授業の概要、特徴等

授業概要は、住環境が生活行動に深くかかわっていることを知ること。安全で健康な生活指標を科学的に読み解くこと。安全で快適な生活への工夫や機器を理解することである。高齢者の心身の特性を理解し快適な住環境を創造することが狙いであるが、自分自身の生活を観察分析すること、住居内だけでなく広く屋外環境をも含めて、住環境を考えるように構成している。

2 アンケート結果に対する見解

受講生の多くは受講態度もよく課題にもまじめに取り組んでいた。講義内容は日常生活に直結することであり、実際の生活を観察して、科学的に考え理解しようとしている様子がうかがえた。自分の生活とともに、他の人の生活、将来の生活をも考もえることに気づいたと感じられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は、安全で健康な住生活を支援できる知識・技術の習得。そのため、住環境を科学的に理解し、安心して暮らせる生活空間の提案力を身につけること。成績の評価基準は、住環境とは何か、環境整備の視点は何かという事柄の理解度と提案力である。單元ごとのまとめのテストやレポートを課し、最終にはまとめ課題を実施する。基本的な事柄を理解していると判断された場合、単位を認定している。

4 授業改善の方法

板書や図表のプリント配布を中心に進め、学生が自分の手で書くこと、図表を見ながら考えることで理解し、学習が深まるようにしている。自分自身の日常生活と関わる講義内容であるため、講義の單元毎に、実体験に基づいて理解が深まるように小テストの内容を工夫していきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 平岡 毅 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 高齢者に対する支援と介護保険制度 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1215 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 30名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	13	17	-	-	26	-	-	2	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.93		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 10.0%	60分 程度 26.7%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 43.3%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.3%	90分 程度 10.0%	60分 程度 23.3%	30分 程度 30.0%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.37		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 23.3%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 40.0%	やや 低かった 3.3%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 60.0%	注意 していた 16.7%	ある程度 注意 していた 6.7%	あまり 注意して いなかった 6.7%	全く 注意して いなかった 10.0%	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.27		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.40		■					

1 授業の概要、特徴等

学修内容を、①高齢者福祉の制度や福祉サービスの実態を学び、高齢者に対する支援というもの全体の全体像を把握する。②介護保険制度の概要を把握し、サービスは利用するものではなく活用するものであるという視点を養う。と定めて15回の授業を実施。④授業ごとに振り返りと確認と理解度を図るべく課題を与え、提出してもらった。そして、高齢者福祉の全体像を理解し、介護保険制度と繋げて考えることができ、制度の概要の理解、サービスは「活用するものである！」という視点にて考えることができるということを目指した。

2 アンケート結果に対する見解

評価項目の授業内容の設問④教科書、プリント、視聴覚教材は、授業の理解に役立ちましたか。に対するの評価が高く、毎回教科書を再度自身にて、データを打ち変えて配布レジュメを作成したことでわかりやすいと感じてもらえたと思う。また、自由記述にもあったが、実際の施設の施設長に直接教えていただけというのは大変有り難く、勉強になりました…という記載がありましたが、でき得る限り、リアルタイムなそして、高齢者の状態像や生活の様子を伝えるように心がけたので、結果としてより具体的にイメージを持っていたのかな？と思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標(成果)を①高齢者福祉の全体像を理解し、介護保険制度と繋げて考えることができる。②介護保険制度の概要を理解し、サービスは「活用するものである！」という視点にて考えることができる。という方向性でのレクチャーでありました。授業内にて意識して、意図的に伝えたので、個々に若干の差はあるものの目標達成はほぼできたのではないかと考えている。成績評価に関しては、授業での受講姿勢と④授業に1回実施の課題提出を実施し、その習熟・理解度にて判断をしました。

4 授業改善の方法

授業改善に関しては、午後よりの授業の際は程度席を固定とし、教室の前方より詰めて着座してもらうようにする。結果として少しでも睡魔に邪魔をされないような取り組みを考えたい。また、アイスブレイクの活用など集中力の維持と内容に興味を抱いてもらえるような、意図的なしなげと働き掛けをしたいと考えます。もっと、生活介護現場の実情的な話題を授業の中に盛り込むということを行いたいと思う。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 小槻 智彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみ I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1550 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	12	-	-	-	12	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 41.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 41.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.42		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 58.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 8.3%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.33		■				

1 授業の概要、特徴等

援助者として心理的配慮ができることを目標に、高齢者のこころのしくみを中心とした授業を行った。特徴としては、(1) 受講生が身近な例から考えられるように実践や体験を取り入れ、ビデオ教材を多く用いた点、(2) 高齢者やその支援者に関わるこころのしくみについて考える課題を設けた点、さらに(3) 授業の最初に前回の復習テストを行い、知識の定着を図った点である。

2 アンケート結果に対する見解

多くの受講生にとって授業のレベルや教材、進め方は適切なものであった。また、新しい知識の習得や問題意識・関心も高くなり、今後の実践へと繋げられるものであったようである。毎回実施していた復習テストは、授業時間外の学習時間を十分に促すものではなかったが、知識の定着に関しては有効であったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は特に(1) 高齢者のこころのしくみについて説明できるようになること、(2) 援助者として、こころのしくみに基づいた心理的配慮ができるようになることであった。各回の課題や感想、定期試験、アンケートの結果から概ね達成できたと思われる。成績評価は①授業内小レポートおよび復習テストと②定期試験(知識に関する語句問題、心理的配慮に関する記述問題)から行い、①②を同配点として、点数を満たしている受講生に単位認定を行った。

4 授業改善の方法

全体的な進め方や内容については概ね現行の通りでよいと思われる。授業時間外の学習時間を促し、より理解を深めるために、すでに実施していた復習テストに加えて、次の回の授業内容を事前に学習して授業に参加できるような課題を設ける。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 森田 婦美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみⅢ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1560 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	13	-	-	-	13	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.23		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 15.4%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 53.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 23.1%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 46.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.54		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 38.5%	やや 高かった 53.8%	適切 であった 7.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.46		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 23.1%	注意 していた 53.8%	ある程度 注意 していた 23.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.85		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.46		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.69		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

当該授業は介護福祉士として必要な医学的知識であり、利用者の命を守る知識である。また、医師や看護師等他職者との連携が必要な介護福祉士としては、最低必要な医療的知識である。そのためには学生自らが学習する意欲が必要であり、教員もそのために学生のモチベーションを高める授業進行が望まれる。

2 アンケート結果に対する見解

「専門過ぎて難しいと思った」という感想が述べられているが、その反面「わかりやすかった」とも評価しており、学生間のレベルの差が大きいため、標準を定めるのが難しい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ポイントを絞った試験対策をすることで学習の成果はあった。

4 授業改善の方法

学生間のレベルの差が大きいため授業内容に苦慮するが、必要な知識を教授することは、授業担当者として必須であることから、今後も学習する雰囲気作りに努力したい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 畑下 芳史 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : こころとからだのしくみⅣ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1565 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	12	-	-	-	12	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.58		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.58		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	2	4.42		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.42		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.45		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

介護現場における口腔ケアのニーズは高まってきており、介護福祉士にもその知識と技術習得が求められる時代となっているが、実際の現場ではまだまだ不十分であるのが現状である。そのような中、将来介護福祉士を目指す学生に対し、口腔ケアが全身の健康につながることや正しい口腔ケアの方法を指導し、知識や技術を習得させることで要介護者のQOL向上につながるような人材育成を目指している。

2 アンケート結果に対する見解

日々の講義の中で、特に課題を求めることはしていなかったため、事前ならびに事後学習の時間が短い回答になったと思われる。ただ、ブラッシング方法などの日常生活で行う事柄についての講義も行っているため、間接的には事後学習もあるのではないかと推測する。今後現場に出てから実践しようという声があったことは、大変喜ばしく思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標としては、実際の現場に出てから役立つ口腔ケアの知識と技術を身に着けるということとしているため、その点ではある程度の達成はできているのではないかと考える。成績評価は、講義内容の理解度と各々の要介護者と口腔の問題に関する考えを問うレポート提出を課して行ったが、講義内容を踏まえたうえで、自らの理想とする介護福祉士像をきちんと持っているかどうかを判断し、単位認定を行った。

4 授業改善の方法

学生の集中できる時間は短くなってきているため、いかに講義内容に興味を持ってもらえるかどうかを考えた授業構成を考える必要があると考える。今後は、比較的学生が興味を示す映像媒体などをさらに活用して行くつもりである。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1250 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	12	1	-	-	13	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 7.7%	30分 程度 38.5%	ほとんど していない 46.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.7%	60分 程度 15.4%	30分 程度 38.5%	ほとんど していない 38.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.38		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 23.1%	やや 高かった 23.1%	適切 であった 53.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.69		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 53.8%	注意 していた 30.8%	ある程度 注意 していた 7.7%	あまり 注意し てい なかつ た 7.7%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.69		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.46		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.77		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

介護場面では利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションを基盤として支援活動を展開するため、本科目は、まずコミュニケーションの基本を理解する。そのうえで、具体的なコミュニケーション技術を学ぶ。教授内容に抽象的な専門用語が多いため、グループディスカッションにより学生の意見共有を図り、正答を覚えるのではなく、自分なりの解釈を得られるよう思考することを意識した。また、授業ノートの余白に、教員の発言や受講上の関心事や連想したことを積極的にメモすることを意識づけ、15回分のノートを提出してもらい、成績評価の対象とした。

2 アンケート結果に対する見解

本科目では、提出課題を課すことが少なく、特に事前学習はほとんど設けていない。そのため、受講態度②③の回答に影響していると思われる。単に課題を提示するのではなく、学生に興味・関心を抱いて受講してもらうためには、事前・事後学習を身近な場面かつ具体的な行動として設定すべきであった。自由記述の内容については、2014年度の本科目の考察（「板書の文字が見づらいとの意見が多く、改善の余地は大きい。また、ノートに書き写すことに集中してしまう面もあるため、教授内容を焦点化する必要を感じる」）が、活かされている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

介護におけるコミュニケーション能力の習得については実践が不可欠であるため、現時点での評価は難しいが、基盤づくりとしての基礎的理解に寄与したと思う。また、実習における学習目標の動機づけにできた。シラバスに記載した評価基準に沿って評価を行った結果、受講者14名中、13名が単位認定、1名は、認定不可となった。（再試験放棄のため）

4 授業改善の方法

学生にとって介護という概念は身近ではなく、実務経験にもとづいて単方向的に教えるだけでは、教育効果は薄い。そのため、介護実習と連動させ、教員の実体験を考えるきっかけづくりに活用し、自由な討論と思考ができる環境を設けたい。その中で、学生の主体的な関心を生み出し、物事に自ら関わる力を引き出したいと考えている。具体的には、視聴覚教材の視聴や文献の朗読など、感性に働きかけられるような授業をデザインする。また、教科書学習に偏り過ぎず、学生観に応じたワークテーマを設定し、グループワークを展開する。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 酒井 宏和 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 社会福祉施設経営 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1605 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	12	-	-	9	-	-	3	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 41.7%	30分 程度 8.3%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 41.7%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 41.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.83		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 41.7%	やや 低かった 8.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.33		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった 8.3%	全く 注意して いなかった 16.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.33		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.25		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.50		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

現代社会における施設経営について、理解を深める。施設経営における理念を中心に据え、その必要性について理解する。施設経営の梨園について内容を把握する。このことにより、社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップ上で職員として知るべき施設経営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて、知識を得て理解を深めることができる。

2 アンケート結果に対する見解

社会福祉施設という現場のケアと異なる視点を持つために教科書だけでなく動画視聴も活用し、昨年よりも理解のし易さに努めた。その結果が狙い通りにアンケート結果に現れなかった。小テストを毎回実施しているが、自由記述にあった等に答合わせに時間を取り解説に力を入れていきたい。また事業計画を作れることはシラバス上にも到達目標に入れより実践的な内容とする。授業時間を気にするあまり学生の意見に耳を傾けられていないことを反省し、今後は意識したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップ上で職員として知るべき施設運営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて、知識を得て理解を深めることができるとした目標については、12名中全員が授業態度や振り返りの試験において合格点に達し、概ね達成できたのではないかと考えている。毎回、小テストを行い、受講者個別の理解度の把握に努めた。

4 授業改善の方法

当講義を担当して、4年目となるが、授業改善を進め、昨年はようやく狙い通りの授業を実施できる手応えを感じていたが、今年は思ったように結果が得られなかった。今後は、施設運営についての質問を受けたり、小テストの答え合わせを丁寧にしたり、事業計画を作れるように到達目標を設定するなど、実践的な内容となるように改善していきたい。また、学生の意見にもっと耳を傾け、受講生の興味や関心を保つ努力はしていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 武田 千幸 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活支援技術Ⅱ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1310a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	12	-	-	-	12	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 41.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 41.7%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 25.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.42		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 16.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.25		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 58.3%	ある程度 注意 していた 8.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.08		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.42		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■				

1 授業の概要、特徴等

生活支援技術Ⅱでは、介護実習室や入浴実習室を使い、基本的な生活支援技術を習得するための授業を行っている。前期の生活支援技術Ⅰに引き続き、ベッドメイキング、体位変換、移乗、移動、着脱、排泄、食事、入浴、整容などにおける生活支援技術を習得できるよう、プログラムを組んでいる。授業では、介護者役と利用者役の両方を体験するようにし、介護者役だけでなく利用者役も学生が行うことで、介護を受ける側の気持ちを常に考え、体験から学んだ技術の応用ができるようになることをめざしている。

2 アンケート結果に対する見解

授業前の勉強をほとんどしていない学生が40%、授業後の勉強をほとんどしていない学生が25%いることが分かり、授業中という短い時間だけでは習得が難しい生活支援技術において、事前事後の学習をしていない学生の割合が高いことが分かった。また、授業のレベルが非常に高かった、やや高かったと感じている学生が合わせて80%以上いることもわかった。見ているだけでわかったつもりになり、実際にやってみると難しくわからないという状況であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内で利用者役を行うことで、介護を受ける側の気持ちを考える機会を持つことはできたと思われる。しかし学生は利用者役にはなりきれず、利用者の理解には至らないところも多々見られる。成績評価については、筆記での理解度チェック、実技のチェック、授業態度をあわせて評価し、単位認定した。実技チェックでは2つの事例問題を提示し、そのうちの1つを行った。利用者に対し、尊厳をもって関わるのができたか、安全に配慮できたか、適切に基本的な生活支援技術を実施できたか等確認した。

4 授業改善の方法

いかに練習が必要か、何度も何度も繰り返し行ってこそ身に付く技術であることを学生にわかりやすく伝えていかなければならないと考える。また、演習を行っている様子をビデオやカメラで撮影し、学生が自分の様子を振り返る機会を設け、技術の向上に結び付けたい。指導を聞くだけ、教員がデモを行っているのを見るだけでは、自分自身の演習の状況との違いに気づくことが難しいと考えられるため、視覚で理解できるようにしていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 竹花 正剛 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	14	-	1	14	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 26.7%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 46.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 53.3%	注意 していた 26.7%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.93		■				

1 授業の概要、特徴等

ヒューマンアニマルボンド (HAB) の考え方、基本理を動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、歴史、理論、研究法、実践研究、活動を視覚教材も使用して概観した。社会的福祉、介護福祉分野でのアニマルセラピーの位置づけ、実際の関わり方を、同行する犬と共に実践的観点から展開した授業を行った。犬がセラピーにいかにも有用な動物であるかについて、人と犬の互恵的関係から説明した。

2 アンケート結果に対する見解

アニマルセラピーの用語は既知である学生が多かったが、動物が介在することによる効果について、学生の関心、意識が高かったかについては、個人差が大きいようである。講義の内容よりも犬がいることへの関心が高く、セラピー効果についてのデータを数多く示したが、理論的な側面に関して昨年度よりデータを少し減らし、データから導かれる生理的、心理的、社会的効果について、具体的に話すようには試みたつもりである。ただし、限られた時間内での情報量も多かったように思われる。動画を多く使用したが逆に焦点が少しぼやけるところもあたかもしれない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業での目標は、アニマルセラピーの効果、ヒューマンアニマルボンドの理念の理解、動物介在活動 (AAA)、動物介在療法 (AAT)、動物介在教育 (AAE) の違い、高齢者に及ぼすペットの効果に関してである。成績評価はほぼ基準に達していたと言える。授業内の客観的査定として小テストの実施を行った方がよいかと考える。単位認定に関して、レポートテストの結果からは一定の基準に達していた。ただし、毎年そうであるが、インターネットからの資料をそのままコピーする学生も多く、考察を求めているのに、まとめた内容からの提案が十分になされていない。

4 授業改善の方法

毎年、学生に動物が介在することの効果、影響についてPPT、映像、LIVE体験を通して意識や視点の変容を試みている。5コマの中でグループ討議をして発表させる形態が困難であるが、毎回講義中もしくは後に話し合う時間を設けながら意識と知識の強化を図りたい。事前にテーマを与えて、授業の最初に提出させ意識を高めてから講義に入り、最終講義の5回目に確認テストを実施する方法もある。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 村本 早希 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	14	-	1	14	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.13		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 26.7%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 46.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 53.3%	注意 していた 26.7%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.93		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

近年、延命治療ではなく、健やかな長寿のために抗加齢医学や予防医学が研究され、注目されつつある。衣・食・住を通じて真の予防医学と心と体の関係を学ぶ。東洋医学と心や体の関係を理解し、日常生活や社会福祉、介護の分野での健康増進、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に役立てることができるようになる。

2 アンケート結果に対する見解

昨年より、授業に対する質問等が難しい内容になったため、当初より、より深い内容を話した。そのため、アロマに興味のない人には、やや難しい内容になったかもしれない。授業態度はよく、注意を促すような学生はいなかったが、授業後の質問が多かったため、全員の理解度をあげられるような質問の受け方ができなかったのかなと思う。しかし、アンケート後に行った実習では、全員が積極的に行っていた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一番大切な「利用者さんや自身のケア」という面では、実習の取り組み方もよく、目標は達成できたかと思う。成績や単位の認定に関しては、毎時間の小テストや授業態度などにより評価した。

4 授業改善の方法

実習に関しては良かったと思うが、基本的な知識、座学の部分で、やや難しい部分があったと思う。座学をもう少しコンパクトな内容にし、実習の時間を長くとっても良いのかなと思う。来年にいかせるように、カリキュラム等感がいていく予定である。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 尾崎 剛志 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 低所得者に対する支援と生活保護制度 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1730 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	4	-	-	-	1	-	-	3	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.25		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 25.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 100.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	2	4.00		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

低所得者の現状について考える。低所得者と私達の生活はそれほど大きな差があるわけではないことを理解する。その後、公的扶助制度が発達してきた歴史を欧米について学び、日本の展開過程を学ぶ。現在の生活保護制度の原理原則を踏まえた上で、どのように制度が運用されているのかを学ぶ、という内容。現状についてはDVDなどを視聴し、視覚的な理解も出来るように配慮をした。

2 アンケート結果に対する見解

他の科目の評価が高いので、どのようにすればそのような評価になるのか知りたい。講義で知識を得て、深めなければならない科目においてこれ以上噛み砕くということは、国家試験に通らないことを前提とする内容になってしまうので、国家試験に通る内容で、学生が理解できるように教授する方法について、さらに考えなければならない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標としてはあまり達成できたとは言えない。目的意識の低い学生を交えながら、国家試験を念頭に置いた講義内容は課題にしても、説明にしてもあまり集中して聞けるような状態にはない。成績評価基準はある程度下げたが、一度目の評価では基準に達しているとは言えない状況であった。二度目の評価についてもかなり甘いものではあったが、本人達の努力も考慮し、単位認定を行った。

4 授業改善の方法

学生が実社会で役に立つと思えるような授業内容にすることが優先となるように思うので、知識を習得に重点を置く教授内容を変更する必要がある。ただし、国家試験を念頭に置くのかどうか、と言う点についてはあまり念頭に置けるような状況ではないので、この科目の基本となる考え方を理解できるというレベルに授業の目的等を落とし込む必要があると考える。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 発達と老化の理解 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1505 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	13	-	1	-	13	1	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.64		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 7.1%	60分 程度 21.4%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 35.7%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 7.1%	60分 程度 28.6%	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 21.4%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.21		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 35.7%	やや 高かった 35.7%	適切 であった 21.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 7.1%	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 14.3%	ある程度 注意 していた 21.4%	あまり 注意して いなかった 7.1%	全く 注意して いなかった 7.1%	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.86		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.86		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.21		■				

1 授業の概要、特徴等

概要 介護に必要な加齢医学について学ぶ。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める。 **特徴** 国家試験に即した内容を中心とする。教科書、スライド、プリント、練習問題を用い声が行きわたる様にマイクを使い、欠席者にもプリントを配布、後部座席にも見える様にカラースライドで公平に伝える。課題では個々の回答を毎回比較検討し、掘り下げた理解を目指す。

2 アンケート結果に対する見解

私語や遅刻は殆どなく、居眠りが見られた。授業が分かりにくく、ねらい・目的が理解できず、得るものが少なかった学生がいた様だ。平均の学習時間はかなり多く、授業が分かりにくいのを自学でカバーしている実態が浮かび上がる。課題などの成績は良い学生が大半で講師の至らぬ点を学生の方が穴埋めしてくれたと考える。課題からは各自がそれぞれ何かを得、授業の目的を達成したと伝わって来た。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成 介護に必要な加齢医学について学び、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める事を目的とする。 **成績評価基準と単位認定** 受講姿勢10%理解度90%で採点し、60%以上の得点で単位を認定する。課題提出の有無を重視し、内容を評価する。客観的問題と課題作文を課し評価の参考とし目標達成の目安に用いる。

4 授業改善の方法

国家試験に即した内容を医療面から解説している。介護の背景を知る事は、確かな介護技術を身に付けるために欠かせない。昨今、巷で言われる介護離職や虐待の問題は介護職の技術不足が一因とも言える。介護技術につながる基礎知識である事をアピールし、受講者の意識や学習意欲を高めていきたい。また、課題を通じて個人の力を引き出し、活用できる様に指導を続けていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 松本 範子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 運動生理学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2130 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 32名 **回答者数** : 28名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	26	2	-	-	28	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態 度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.18		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 3.6%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 67.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 7.1%	30分 程度 32.1%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
授業 内 容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.32		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	-	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 46.4%	適切 であった 39.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.96		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 3.6%	注意 していた 78.6%	ある程度 注意 していた 17.9%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.71		■				
総合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.93		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

生体のしくみと構造について学び、身体の生理機能がどのように連携し、運動を可能にしているかを学修することを目的とした授業である。座学のみでの学修でなく、体力の測定など実習的な要素を加え、全員が参加しやすい授業構成を心掛けた。

2 アンケート結果に対する見解

授業内において、復習の質問などを投げかけたが、正答の可否に差が生じており、ここから、理解にも差があったものと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

試験において、運動のしくみや運動による身体の生理機能についての理解、運動と栄養の関係の理解を中心に出題した。出席率と試験7割以上を合格とした。

4 授業改善の方法

授業内で、学生が興味を持っている内容などを確認しながら、その時々トピックなどを加えて授業に結び付けるなどを行った。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品の官能評価・鑑別論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2415 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	12	-	-	-	12	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 8.3%	60分 程度 8.3%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 8.3%	60分 程度 16.7%	30分 程度 8.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.58						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.3%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 58.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.42						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 16.7%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった 16.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00						
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.67						

1 授業の概要、特徴等

この科目はフードスペシャリスト資格の中心となる科目である。12月中旬に実施される認定試験を目標に、テキストの内容に沿って進めながら、試験対策を並行して進める必要がある。テキストの内容は栄養士科目の食品材料学と重なる部分も多くあるため、テキスト前半の官能評価や物性についてのところを重点的に理解できるよう授業を進めている。今年度は認定試験を受験しない学生が3名受講していた。

2 アンケート結果に対する見解

試験対策を細かく単元ごとに入れて進めるようにしたため、授業内容と試験対策がリンクしやすかったようである。試験対策の過去問にあたることで、抑えるべきポイントがわかるので、それが授業内容を理解することにも役立つと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標はフードスペシャリスト認定試験に合格することが大きい割合を占めるので、試験結果を見て達成度合いを確認している。今年度は12名の受験者のうち10名が合格し、合格率は83.3%でほぼ全国平均の結果で一定の目標は達成できたと考える。成績評価については授業で実施する確認テストの結果や最後のまとめで理解度を判定しているが、受講者のうち出席不足の1名を除いて単位認定の基準をクリアできた。

4 授業改善の方法

食品の官能評価や鑑別方法は、食材を選択する際に必要な知識である。この授業では、試験対策を進めることが中心になっているが、実際の体験を授業内でできる工夫を心掛けたい。認定試験が12月に終了するため、残りの時間をできるだけその機会にあてられるよう努力する。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生理学実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2125 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 30名 **回答者数** : 28名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コ ー ス	食物栄養 コ ー ス	ビジネス キャリア コ ー ス			
	-	28	-	-	-	27	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態 度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 3.6%	30分 程度 32.1%	ほとんど していない 60.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 3.6%	60分 程度 10.7%	30分 程度 32.1%	ほとんど していない 53.6%	無回答 -	
授業 内 容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.36		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 32.1%	適切 であった 53.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.22		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつた 17.9%	注意 してい た 67.9%	ある程 度注 意し てい た 7.1%	あま り注 意し てい なかつた 3.6%	全 く注 意し てい なかつた -	無回答 3.6%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.19		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.21		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.18		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

1回生前期・後期に「人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ」において、解剖学について学んだことをもとに、実際に自分の唾液や尿を使ったり、標本を観察したり、マウスの解剖も行う実習科目である。初めに実習内容について、操作を説明した上で、グループや二人一組で作業を行う。さらに、その日のテーマに関連した課題プリントを配布して、時間内にテキストなどを見ながら解かせることで、「人体の構造と機能」や「生化学」に関連する内容を復習することも行っている。実習の最後に、内容の振り返りと課題の答え合わせを行った上で、少し復習しながら覚える時間を取った後で15問程度の小テストを行っている。

2 アンケート結果に対する見解

どの項目についても、全体平均程度の数値が出ているが、⑩の「この授業は自分の将来に役立つと思いましたか」という質問については、平均を下回っていた。健康を維持するために人体の構造などを把握することは大切ではあるが、栄養士の実務に直結する調理実習や栄養関連の科目とは異なり、学生にとって重要性の認識がやや低いともいえ、次年度からは、意識づけを行いたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

各回で集めているプリントの考察や課題プリントの取組、小テスト、まとめのテストなどをもとに成績評価を行っている。課題プリントもやっていることから、授業内で人体の構造と機能の理解につながっていると考えている。

4 授業改善の方法

小テストを実施するまでの覚える時間が学生によっては充分でないこともあり、語句の記録に時間がかかる学生もいた。個別に指導を行ってはいたが、次年度は授業の中盤に課題プリントについては解説をすませて覚える時間を確保することなども検討したい。前の週に配布してやってくるように指示したこともあったが、忘れてくる学生が多かったため、効果的ではなかった。欠席した場合は次週に仕上げたプリントを出すように指示していたが、一部の学生ができていなかったため、指導を徹底していきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 箕山 なおみ **職名** : 助教 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 専門調理(製菓実習) **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2301 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	1	13	-	-	-	14	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.21		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 7.1%	90分 程度 14.3%	60分 程度 14.3%	30分 程度 -	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 14.3%	60分 程度 35.7%	30分 程度 -	ほとんど していない 28.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.57		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.71		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 28.6%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 14.3%	あまり 注意して いなかった 7.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.64		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.64		■				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 志垣 瞳 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : フードコーディネータ論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2420 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	1	14	1	-	-	15	1	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	-	4.44		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 25.0%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 31.3%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	-	4.69		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	-	非常に 高かった 18.8%	やや 高かった 37.5%	適切 であった 43.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	-	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	-	注意する 必要は なかった 43.8%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 31.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	-	4.31		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	-	4.31		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	-	4.38		■				

1 授業の概要、特徴等

この科目は、フードスペシャリスト資格取得に必須科目である。授業概要・目的は、料理を提供する場面で快適な食事ができるように、料理・メニュー・食卓・食器・食空間・サービス・マナー・マネージメント・食企画などを含めたコーディネートの基本と技能を修得し、資格を生かす現場での実践力と資格試験に合格できる力を身につけることである。食のコーディネートの内容は多岐にわたっており、その背景には各国の料理様式にまつわる食文化をも含むことから、授業内容についてはできるだけわかりやすい講義に努め、資料や実物を見せて受講者の理解を促すとともに各章の終了時には復習を兼ねて過去の試験問題を解説し、受験に供えるなどしている。

2 アンケート結果に対する見解

今年度の受講者は講義を受ける姿勢がよく、制止するほどの私語が少なかったことが「受講態度」の評価に表れている。また「授業内容」や「授業の進め方」の評価では、できるだけわかりやすく、理解しやすい授業をと努力していることが学生に受け止められた結果となった。総合評価では科目群平均と同程度もしくはそれ以上の評価が得られた。授業内容は栄養士業務においても密接に関係していることから、授業を通して新しい知識や技術が得られ、学んだことが自分の将来に役に立つと肯定する学生が多いことは望ましいと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は授業への積極的参加度ならびにレポート提出状況とその内容を基準とし、途中で授業放棄した学生以外は全員単位認定した。資格試験においては受験者12名のうち10名が合格できた。83%という高い合格率を見たことにより、授業の目標は半ば達成できたと考える。

4 授業改善の方法

今年度は過去問のプリントをやってこない学生が多かったので、次年度は学生による答え合わせと解説を課すなどの改善を試みたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 臨床栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2185 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 29名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	1	25	3	-	-	27	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.9%	60分 程度 24.1%	30分 程度 37.9%	ほとんど していない 31.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.9%	60分 程度 27.6%	30分 程度 34.5%	ほとんど していない 31.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.59		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 13.8%	やや 高かった 44.8%	適切 であった 41.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.34		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 6.9%	注意 していた 72.4%	ある程度 注意 していた 17.2%	あまり 注意し てい なかつ た 3.4%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.34		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.34		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.52		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養ケアが治療の中核となる疾患を中心に、病態、治療法、予防法を概説した。教科書に記載されている事項の中で、特に重要な部分が理解できるようにプリントを用いた。

2 アンケート結果に対する見解

多くの学生が、授業を通じて、病気の栄養ケアに関心や問題意識を持つようになり、良かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

適宜まとめとふりかえりを行い、疾病について正しく理解して 栄養ケアの原則が身についているか確かめた。講義を聞き、その都度内容を理解するよう努力することが、良い成績につながったと思われる。

4 授業改善の方法

プリントやパワーポイントの図に、わかりづらい部分があるとの指摘があったので、改善していく。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 井上 彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : イラスト・画像処理 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3235 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	7	-	2	-	-	4	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.22		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 22.2%	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 22.2%	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 66.7%	適切 であった 22.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 77.8%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.89		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.11		■				

1 授業の概要、特徴等

PhotoshopやIllustratorの基本操作を身につけ、暮らしのなかにある”デザイン”を身近に感じ、自身の企画力・創造力・プレゼンテーション力を高めることを目的とする。Photoshopでは主にカラーズの制作、写真補正を学ぶ。Illustratorでは、カラーチップ、ロゴ、サイン、地図、カレンダーなどを作成。授業の最終日には、ポチ袋の展開図をIllustratorで作成。その後、制作した図面に基づき、用意した美しい紙と定規やハサミを使用して、実物を制作した。

2 アンケート結果に対する見解

どの回答も、高い評価だと感じた。この授業はソフトの使用法の習得を前提として進むため、遅刻欠席者が常にまばらにいる状態では、各々の理解度・修得度も違う。特にその点を気にかけていたので、「授業の進め方」への評価⑥⑧が非常に高く、安心した。ソフトに対しての学生の理解度・状態を把握できたのは、少人数での授業ならではのことだと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の課題へは真面目に取り組む生徒が大半だった。与えられた課題、提出物には忠実であるため、成績評価・単位認定にもその点を大きく評価した。しかし、授業の「目標達成」という意味では、学生たちのより深い興味関心を招き、今度、将来に役立つほどの意欲は引き出す事ができなかったのではないかと感じる。

4 授業改善の方法

どんなに素晴らしいアイデアを持っていたとしても、ソフトへの基本的な理解や技術的な習得がなければ、その先にある”デザインする”“表現する”という最も大事な作業にたどり着けない場合もある。その点を踏まえると、やはり目の行き届く少人数(十人程)での授業が望ましい。あと、授業中・アンケート共に「パソコンの起動が遅い」という意見が上がった。それは、私自身も常々感じていたことだった。短い授業時間の中では、その点が改善されるとよりスムーズに、ストレスも少なく取り組めるのではないかと感じる。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : カラーコーディネート演習 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3430 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	14	-	2	-	-	11	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.69		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 18.8%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない 43.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 6.3%	90分 程度 6.3%	60分 程度 12.5%	30分 程度 37.5%	ほとんど していない 37.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 18.8%	やや 高かった 43.8%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.06		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 81.3%	ある程度 注意 していた 6.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.13		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.19		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.13		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

前期に色彩の基本的な知識を学ぶカラーコーディネート論を受講し、その基本的知識をさらに発展させ、企業等で必要とされる色彩に関する知識を身につけていく授業である。演習形式で行い、学んだことが理解できているかを、練習問題を解いて確認し、分からない所は学び直し、理解を深めていく。その結果として、カラーコーディネート検定を受験し、その知識が身に付いたかどうかを確認する。

2 アンケート結果に対する見解

今年度は、受講者の4割弱しか検定試験を受験しなかった。資格の取得を目指すことでモチベーションが上がると考えられるが、受講した学生は、資格取得に拘わらず、ある程度真剣に取り組んでいたことがわかった。アンケート時は試験のかなり前であったが、それでも事後学習が見られ、試験前になるとさらなる事後学習が考えられ、目的を持って学習する大切さを感じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カラーコーディネート検定3級に合格することを目標としているが、半分以上は検定試験を受験しない。カラーコーディネート検定3級レベルの内容が理解しているかどうかを成績評価基準とし、その基準に達している場合は、単位認定している。

4 授業改善の方法

単元ごとに説明を行い、その内容の問題を解き理解を深めていく方法で進めているが、教科書を見ながら真剣に取り組んでいく学生と、あまり考えずに問題を解き、短時間で終える学生とがいる。そのなかで授業の進め方に苦勞をしているが、個々の理解度、スピードを勘案しながら進めていきたい。また、出来るだけ検定試験を受験し、自信につなげることができるよう色彩の魅力伝えていく。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3170 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 5名

回答者内訳	学年				学科・コース					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	4	-	1	-	-	-	5	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価							
		学生の評価平均		■ 学生の評価平均							
		1	2	3	4	5					
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.20	■■■■■					◇		
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 90分程度 -	90分程度 -	60分程度 20.0%	30分程度 -	ほとんどしていない 80.0%	無回答 -			
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 40.0%	30分程度 -	ほとんどしていない 60.0%	無回答 -			
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.20	■■■■■					◇		
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 60.0%	やや高かった 40.0%	適切であった -	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -			
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.40	■■■■■					◇		
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 40.0%	注意していた 20.0%	ある程度注意していた 40.0%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答 -			
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.60	■■■■■					◇		
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.60	■■■■■					◇		
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.60	■■■■■					◇		

1 授業の概要、特徴等

後期は、前期に引き続き簿記の講義を行うとともに、実務で役立つ数字の読み方や経営分析の仕方を身につけてもらうことに重点を置いた。特に後半では、実在の企業の分析及びプレゼンテーション(グループワーク)などを行い、座学にとどまらない講義を心掛けた。また、1回生ということもあり、PPTの扱いやプレゼンに慣れていない学生もいたため、PPTを使ったプレゼンノウハウについても指導した。

2 アンケート結果に対する見解

概ね妥当と考える。学生の基礎学力やモチベーションの差が、理解度や満足度に影響を与えていた。講義全体としてのレベル感については、大学として実施すべき教育水準を考慮すると、徒に下げるべきではないと考える。引き続き、基礎学力やレベルに応じた個別指導をよりきめ細かく行うことで、理解度向上および満足度向上につなげていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一年を通じて、「実務に役立つ経理の感覚」の習得に力点を置いた結果、複式簿記の基本的な概念や数字感覚を身につけてもらうことはできた。特に最後の企業分析では、身近な企業のwebサイト等を熱心に読み込み、自ら調査し分析する能力を身につけることができた。

4 授業改善の方法

理解度の個人差が大きい分野であるため、引き続きそれぞれの理解度を把握しながらきめ細かなフォローをしていくとともに、学生の興味対象を汲み取りながら、臨機応変に力点ポイントを変更していきたい。また、社会に出てからの仕事をイメージできるような実例なども、より多く織り込んでいきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 上田 利博 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ゼミナールⅡ (ビジネスキャリア) **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3920 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	7	-	-	-	-	-	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 28.6%	60分 程度 -	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 14.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 28.6%	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 28.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.29		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 28.6%	やや 高かった 42.9%	適切 であった 28.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.14		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 71.4%	注意 していた 14.3%	ある程度 注意 していた 14.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.29		■				

1 授業の概要、特徴等

対象学生が1年生であることを考慮し、職業人として適応するための準備として、職業観や勤労観といった概念を前提に、ビジネス常識および基礎的なコミュニケーションについて、ビジネス現場で自ら発信していくための体験を重視した講義である。一方的な講義主体の授業ではなく、学生参画型の、学生自らが調べて発表し、学生相互に意見交換を行うことで自らの参画意識とともに理解度を高めていく授業である。

2 アンケート結果に対する見解

この授業は2限と3限の連続で、担当教員が2名で授業を行ったので、学生もアンケートへの回答は少し採点しづらかったのではないと思われる。事前勉強時間が他の科目と比較して少し多かったと思われる。しかし、全員、毎回、事前課題に取り組んでいただけたので、授業の内容も充実し、理解度は上がったと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

特に期末のテストは行わず、日々の授業への積極的な参画度および理解度、授業中の態度をはじめ、授業中の小テストの合計を成績評価の基準項目とした。日々の授業では、与えたテーマに対する事前の資料調べと、発表内容を採点の基準とした。また、2グループを基本としたプレゼンを毎回実施し、他グループのプレゼンに対するコメントも評価の対象とした。

4 授業改善の方法

今回の学生の授業の取り組み姿勢は予習・復習にバラつきはあったものの、参加意欲や平均的な理解度は高く、自分の知識として蓄積されたと思われる。ただ、全体のアンケートから、少し事前課題が多かったかと思われるところがある。これらを踏まえて、今後は今年の進め方を継続するものの、事前課題等は時間に配慮した効果的な活用を実施したいと考えている。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 吉村 司 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ビジネス文書 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3127 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コ ー ス	食物栄養 コ ー ス	ビジネス キ ャ リ ア コ ー ス			
	6	2	-	-	-	-	6	2	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態 度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 25.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 62.5%	ほとんど していない 12.5%	無回答 -	
授業 内 容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.75		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 62.5%	適切 であった 12.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.63		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつた 50.0%	注意 してい た 37.5%	ある程度 注意 してい た 12.5%	あまり 注意し てい なかつた -	全く 注意し てい なかつた -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.00		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

ビジネス文書の基本的な書式から、会社における基本業務を踏まえ「ビジネス文書検定」および業務文書、社交文書、提案書、自己紹介書、履歴書、志望動機書等実践的なビジネス文書テンプレートを活用し、オリジナル教材による講義、演習、ワークショップを通じてビジネス文書の理解・企画・作成・活用力を高めるとともに、毎回の1分間スピーチや授業内の発表により、文書構成力やプレゼンテーション力の向上を目指した。

2 アンケート結果に対する見解

「授業内容」「授業の進め方」「総合評価」に関しては昨年比で平均値が下回っていたが、近年、受講者数の増大等ある意味本年のデータが平均水準である可能性もあり、来年度の結果も加えて今後総合的に評価して行きたい。一方、昨年の課題であった予復習時間の短さに対して、今回は授業テーマに即した事前課題や宿題・レポート等を毎回の授業で課し自ずと予復習に取り組める方式にしたところ、予習は昨年より10分→30分、復習0分→33.8分と一定の改善が見られた。今後も引き続き興味ある授業展開を目指したい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成については「2」の通り。成績評価基準は平常点 (50%) (①出席②受講姿勢)、コミュニケーション力 (30%) (①プレゼンテーション力②対人理解力③対人配慮力)、理解度 (20%) (①レポート内容②小テスト)および学修成果等の各評価項目をS~Eの6段階で評価し点数化。単純な出席点ではなく、毎回授業終了後に提出するメールレポートや授業貢献を毎回採点し、授業の理解力のみならず企画力、文書構成力、プレゼンテーション力やファシリテーション力等多角的な評価を心掛けて単位認定した。

4 授業改善の方法

ビジネスシーンにおけるインターネット活用は日常のかつより効率化しており、授業の中でもインターネット環境下での各種ビジネス文書の展開により重点を置いて説明してきた。ビジネス経験に恵まれ難い学生各位に対してよりリアルに実感出来る事例、記事、データ等を駆使しながら、彼ら彼女らの等身大の経験に響く授業素材をできるだけ集めて教材に反映し授業内で展開することで、より理解が深まる授業作りにチャレンジして行きたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 杉山 正和 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : プロダクトデザインII **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3444 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 8名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学 科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	7	-	-	-	-	1	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	2.71		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 28.6%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 28.6%	30分 程度 -	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	2.86		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	非常に 高かった	非常に 高かった 71.4%	やや 高かった -	適切 であった 14.3%	やや 低かった 14.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 14.3%	注意 してい た 28.6%	ある程 度注 意し てい た 28.6%	あま り注 意し てい な かつ た 28.6%	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	2.57		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	2.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	2.57		■				

1 授業の概要、特徴等

現在、社会において多くの業種で事業経営に「デザイン思考手法」を事業経営に導入する動きが注目されていることから、プロダクトデザインコースでは、広義の意味から俯瞰する視点にて、多くの事例・視覚資料を活用し、講義を進めたが、学生の資質の問題もあり、その主目的の理解を得られなかった点は、非常に残念である。プロのプロダクトデザイナーとして他大学で非常勤としてプロダクトデザイン講義を経験したが、他大学の学生の資質と比べ学生の学びの姿勢には積極性・好奇心が見いだせず、授業スタイルを変える工夫を行い、できるだけ参画意識の下、自己表現の機会を設けたが彼等の姿勢には変化は見いだせなかった。

2 アンケート結果に対する見解

「礼に始まり礼で終わる」基本的マナーが欠落している学生が多く、正しい挨拶も出来ない点が気に成る。多くの事例を紹介し広義のデザイン領域を一般教養として掌握する為、デザインに関わる課題を含めカリキュラムを作成し、実社会での、社会人として多くの問題に遭遇した折の自分自身としての解決手法の切っ掛けになる事例を紹介したが、授業の本来の目的の理解は得られなかった。積極性の無い授業姿勢は、課題発掘等の取り組みには不適正と考える。デザインの意味を漫画を描くレベルの趣味の延長で捉えているなら小職の授業内容は、期待に沿ったものではないといえる。実施した授業カリキュラムは現在、望まれる彼らが社会で遭遇するであろう要因はすべて網羅されていると考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単なる座学に留めず、講義の中でミニワークショップ等を設け、自分達の理解度・考えの整理を踏まえたプレゼンテーションにより参画意識を高める様に努めたが、簡単な課題を与えるも全員が未提出の事例もあり、後半のワークショップ中心の授業においても「自分の個性・差異をどう表現して伝えるか？」かの課題に対しても、単なる自己紹介レベルで捉えがちな、課題意図の理解を得るに至らなかった。又、成績評価に対しては授業態度(遅刻・無気力な姿勢・居眠り等)及び課題取り組み姿勢を基準に評価を行った。

4 授業改善の方法

今年度からは、個々の学生の理解度・真直度を考慮して、よりインタラクティブに理解度向上に向け取り組む所存。授業環境に関して関しては、IT環境(モニタースクリーンサイズ・信号ケーブル等)の改善が望まれる。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 碓 ともみ **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : ホスピタリティ論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3311 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	7	-	-	-	-	-	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.86		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 14.3%	60分 程度 28.6%	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 14.3%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 28.6%	60分 程度 14.3%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない 42.9%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.57		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 42.9%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 42.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.57		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.43		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.43		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.57		■				

1 授業の概要、特徴等

人との関わりの中で、主体的に他者に対して「思いやり」や「気づかい」を各種サービス業などの仕事を通して学ぶ。顧客満足(CS)を向上させるには、従業員満足(ES)の向上が不可欠であり、どの様にして、自らのモチベーションを上げ、自己・他者共に満足感を得るかを事例研究を通して、各自がホスピタリティの意義を考える。又、日本の伝統的しきたりや祝いごとの常識もあわせて再確認をした。

2 アンケート結果に対する見解

身近なアルバイトや日常生活から「他者に対するホスピタリティ」を考えさせることから始め、日本だけでなく、世界のホスピタリティについて、事例を出しながら授業を進めていくことで、学生にも理解しやすい授業であったと思われる。2度のレポートに関して、必ずプレゼンも合わせて行う様にして、自分の研究成果を他者に伝えることで、満足を得たと推測する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

他者に心を込めた「ホスピタリティ」を実践する上で、自分が今まで受けた「ホスピタリティ」を思い出し、その時受けた感動を相手に伝える方策を各自で考察させた。又、世界のホスピタリティを学ぶことで、グローバルなものの考えが出来ることを目標達成とした。成績評価基準は、積極的授業参加と2度のレポートとプレゼン力を総合的に判断した。全員単位認定をした。

4 授業改善の方法

最後レポートに関しては、書式を決め、提出させたが、中間レポートに関しては、自由形式にしたため、各自の認識の相違が出てしまった。又、期限を決めたにもかかわらず、提出が遅れ内容も意に沿わないレポートがあったため、次回よりレポートの大切さも気をつけていきたいと感じた。又、画像なども多く使った視覚に訴える教材も取り入れたいと考える。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 吉田 直子 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ(ソルフェージュ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410ad・ac・bd・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 64名 **回答者数** : 47名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	46	-	-	1	-	-	-	47	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.34		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 10.6%	90分 程度 4.3%	60分 程度 17.0%	30分 程度 23.4%	ほとんど していない 44.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 10.6%	90分 程度 4.3%	60分 程度 19.1%	30分 程度 21.3%	ほとんど していない 44.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.49		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.5%	やや 高かった 27.7%	適切 であった 63.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 29.8%	注意 していた 48.9%	ある程度 注意 していた 21.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.36		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.62		■				

1 授業の概要、特徴等

自立したピアノ学習を可能にする能力を育成するために、基本的な読譜力と音楽の基礎知識の理解を図る。「音楽基礎演習Ⅰ」での学習をふまえ、読譜力と音楽基礎知識の定着と写譜、記譜、演奏など実践的な演習を加え、学生が保育現場でどのように学びを生かしていくのかについて発展させた。

2 アンケート結果に対する見解

以下に自由記述に対する見解を述べる。「ピアノの練習をもっとしたいです」→学生は音楽基礎演習ではソルフェージュと理論を45分ずつで交代して授業を受ける。MLの授業では45分の中で読譜やリズム練習、曲の音楽的な説明などとピアノ練習、歌をバランスよく組み込んでいると考えている。「弾き歌いを2回生でなく1回生でやってほしい」→カリキュラム上弾き歌いは2回生となっている。但し、2回生の弾き歌い授業を先取りして、音楽基礎演習の中で、弾き歌いにつながるように片手の弾き歌いや伴奏づけなどを丁寧に指導しており、「音楽Ⅱ」でも一定の進度以上では積極的に弾き歌いの先取り学習を勧めている。現状でもより以上できる人が自主的に両手の弾き歌いに学習を進めることを評価する仕組みになっている。アンケート結果は全項目で全体平均を上回っており、学生からおおよその満足を得られたものと解釈してよいかと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

音楽基礎演習Ⅱは、基本的なリズム表現、ト音記号、ヘ音記号の基本的な読譜、メロディへの和音付け、コードネームや和音番号の理解と記譜と演奏などが可能となるように、実践的な音楽能力の習得を目標とした。音楽基礎演習Ⅰでは単位修得不可であった学生や、他の全くの初心者も含めて履修生全員が単位取得できたことからおおよその目標は達成されたものと思われる。

4 授業改善の方法

読譜に必要な理論、知識をただ指導するだけでなく、授業内で実践力を習得できるように授業を工夫している。しかし、全くの初心者にはこれらは非常に難題であり、授業内だけでなく学生本人の意欲と反復練習が不可欠である。自己学習の必要性の自覚を高めるための一層の声掛けと、意欲を高めるための学習教材等の工夫、歌唱力向上を今後の検討課題としたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ(理論) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410ab・a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 21名

回答者内訳	学年				学科・コース					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	20	-	-	1	-	-	-	21	-	-

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 9.5%	90分程度 -	60分程度 9.5%	30分程度 23.8%	ほとんどしていない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 9.5%	90分程度 -	60分程度 9.5%	30分程度 23.8%	ほとんどしていない 57.1%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった 23.8%	やや高かった 14.3%	適切であった 61.9%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.62		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった 42.9%	注意していた 52.4%	ある程度注意していた 4.8%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.67		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.67		■				

1 授業の概要、特徴等

音楽の基礎的な分野を強化する目的の授業。授業時間を2分割し、ソルフェージュと理論を行う。理論では、楽譜のルールを知り音楽の演奏を助け・生かしていける様にする事を目指している。具体的には、簡単な楽譜を写す事で色々な部分に注目し、演奏する時の助けとなる様にしたり 和音について学び 自分で簡易伴奏が出来る様にしたりしている。

2 アンケート結果に対する見解

授業は毎回、次の授業時間へのヒントとなり工夫に繋がっている。いつも大きな課題となるのが、各々の知識量・理解力・やる気【根気】のばらつきである。アンケートの結果にも それが出ていると思う。毎回、色々工夫を重ねているが なかなか全員の理解に繋がっていない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

子供の歌が独力で簡易伴奏が出来る様に、沢山の曲のレパートリーを持てる様に、が目標。成績評価は 楽譜のルールが概ね理解出来ているか・簡易伴奏をする為の和音付けが出来るかを筆記試験により判断する。

4 授業改善の方法

音楽関連の授業が今まで以上に密接に連携を取り、色々な角度からサポートして実力を高めていく。小さな種々の演習を通して各々の理解内容を増していく。理解の進んでいる学生の力を活用して、各々の力の差を縮小する。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	5	-	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 60.0%	30分程度 20.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 -	60分程度 60.0%	30分程度 20.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.80	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -
授業の 進め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.80	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 40.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00	■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.80	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00	■				

1 授業の概要、特徴等

音楽の基礎的な知識と読譜の力をつけ、ピアノ技術向上を目指す。音楽Ⅰより発展した内容で 次年度の 保育の弾き歌いに繋がる力をつけることを目的とする。

2 アンケート結果に対する見解

音楽Ⅰの課題より 難易度が上がったため学生により取り組む姿勢に差が生じてしまった。しっかりと取り組んだ学生については 非常に力が付き自信をもってピアノに取り組めるようになっていた。取り組みに問題のある学生は、最後まで苦戦していたことが アンケートの結果からも見られる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

全員目標を達成した。合格ラインは最低限のピアノ技術なので、真面目に取り組んでいれば 問題ないと思う。

4 授業改善の方法

グループ分けも 後期は良く考えて時間配分に配慮があり、進度の遅い学生に十分な時間が持てた。冬休みにさぼってしまい結局間に合わなくなり、諦めそうになる学生が毎年いるが、何とかなる 何とかしてもらえという甘えを捨てピアノは日々の努力が必要だという認識をいかに定着させるか が課題であると思う。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.83		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 16.7%	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 16.7%	60分 程度 50.0%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.83		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.83		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.83		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.67		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

前期(音楽Ⅰ)で取得したグレードの続きを各自取り組み、グレード3以上で合格となる。グレード3が終了しているものは弾き歌いにも取り組む。45分ML教室にて集団授業・45分フォロー・ピアノ個人レッスン(一人当たり約15分程度)から構成され、全てに出席する。

2 アンケート結果に対する見解

②に関しては、ピアノ個人レッスンが、90分のうち前半にあるか後半にあるかで結果に差が出ているように感じた。一番重要な③については、ピアノ歴や曲の難易度から考えると90分は練習して欲しいところだが学生の生活を見てみると少し厳しいようにも感じた。⑩の自由記述については、知っている曲やポピュラー曲を弾きたいという声もあったが、バイエル等の教則本を取り組むことで、読譜力・表現力等の基礎能力を身に付けることの必要性を理解させるように努めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

グレード3を修了すること、発表会での演奏・普段の取り組み姿勢・出席状況・ML教室での小テスト(カデンツ C・F・G(D))の合計より評価を行う。

4 授業改善の方法

今期担当した学生はよく練習していたように感じた。しかし、それぞれの課題(音名を書かずに読む・楽曲の曲想をつかみ表現する等)についてはまだまだ足りておらず、今後も粘り強く指導していきたい。以前からの授業の改善については、次回レッスン曲の説明を短いレッスン時間内に取り入れることで、学生が「わからないまま練習する」という練習時に最もストレスを感じる部分を取り除くことが出来た。宿題の確認だけでレッスン時間が足りない状況だが、これからも続けていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305bf・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	9	1	-	-	-	-	-	10	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.30		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 10.0%	90分 程度 -	60分 程度 30.0%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 10.0%	90分 程度 -	60分 程度 30.0%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.60		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 40.0%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.60		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■				

1 授業の概要、特徴等

クラスを2つに分け、ML教室を使用した集団授業45分と個人レッスン(各自の持ち時間以外はフォローアップ授業に参加)45分を交替で受講する。ML教室の集団授業では、弾き歌いへの導入として、伴奏に必要なカデンツとその使い方を学ぶ。個人レッスンでは、それぞれのレベルに応じたピアノ曲を仕上げ、ピアノ実技能力を高めると共に弾き歌い曲にも早期に着手する。個人レッスンなので、きめ細やかな指導が可能である。フォローアップ授業では、弾き歌いの準備として、歌唱を主に扱う。

2 アンケート結果に対する見解

受講態度②③について、練習時間にかなり差があり、1週間あたりの事前事後取り組みの平均時間が30分程度という学生は、毎日練習できていない実態が窺える。ピアノ実技という授業の性格上、毎日の練習がいかに大切かを更に訴えてゆきたい。授業の進め方⑥⑦⑧については、今後も益々、学生の理解度を充分考慮しながら授業を進めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

「保育士として必要な読譜力、表現力、演奏技術を身に付けること」が授業の目標である。「目標グレード課題曲の達成」と「発表会形式の暗譜実技演奏」及び「平常の取り組み」が評価される。さらに出席状況等が加味された合計点により単位が認定される。

4 授業改善の方法

特に授業の後半期になると、早く曲を仕上げたい為、つい教師主導のレッスンになる傾向があった。安易に教師に頼らず、学生ができる限り自分の力の可能性いっぱいまで努力してからレッスンに臨む姿勢を養いたい。そのため、日頃から時間の許す限り読譜にも付き合い、音楽的表現にも喚起を促し、応用のきく本当の実力を育てることを常に目指したい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ab・bd **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	8	-	-	1	-	-	-	9	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.78		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 11.1%	60分 程度 44.4%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 33.3%	90分 程度 11.1%	60分 程度 44.4%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.89		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 33.3%	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.89		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 55.6%	注意 していた 44.4%	ある程度 注意 していた	あまり 注意し てい なかつた	全く 注意し てい なかつた	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.89		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.78		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

前期に開講された音楽Ⅰの学習成果をふまえ、引き続き保育現場で必要なピアノの演奏技能を修得していく。授業は集団(M/L)授業と個人レッスンで構成され、個人レッスン時にはフォローアップ体制も用意されており、学生は各自の実力に応じたグレードに従い上達をめざす。

2 アンケート結果に対する見解

学生たちは常に向上心を持ち、事前事後の練習時間を捻出し、概ねよく努力したと思う。自分の将来について前向きに意識したり、また学生同士で良い刺激を感じあうことができる環境が日々の努力を継続していくための大きな力となっていた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単位認定はグレード3取得を基準としている。成績評価は、発表会形式で行われる試験で、担当教員と学生本人が相談のうえ決定した曲を暗譜で演奏し採点されたものが30%、普段の授業への取り組みやグレードに従った課題の達成度に基づいた平常点が70%として評価される。

4 授業改善の方法

ピアノの演奏技能向上のためには、何よりも日々の努力の継続が必要であるが、学生が自ら目標を持ち自学自習していけるよう、達成感を感じることで演奏する喜びに繋がり、意欲を持って授業に臨めるよう指導していきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ac **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.60		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 -	60分 程度 80.0%	30分 程度 -	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 20.0%	90分 程度 20.0%	60分 程度 60.0%	30分 程度 -	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.60		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 20.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.80		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.80		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.60		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学習したことをふまえ、更に技術の向上に努める。90分を個人、集団授業の2本柱で行う。

2 アンケート結果に対する見解

単位認定の基準が高い。という意見が少なからずあった。確かに学生にとってはハードルの高い課題があったことは否めない。検討の余地があると感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

開始グレードの取得を単位認定基準とする。発表会、グレードの進捗状況、日頃の取り組みを総合し評価する。

4 授業改善の方法

課題曲を見直し適切なものとなるよう検討してゆきたい。しかし、容易にするのでは技術の向上はのぞめない。選曲に際しては慎重に議論しなくてはならない。学生自身の日々の努力も不可欠である。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 50.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 25.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.75		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.75		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 25.0%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.75		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■				

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰ・Ⅱを終了した学生が音楽Ⅳに進める。音楽Ⅰ・Ⅱでピアノ初級を習得した学生が中級のレベルを学べ、初級とは違い、楽譜の難度も上がり、音楽的な表現の幅も広がる。

2 アンケート結果に対する見解

予習復習が必要なピアノなので、アンケート結果では自宅学習の時間をいつも注目して見ている。意欲を持って自宅練習に取り組めるようにするには、どのような授業をすればいいのか、もっと興味を持てるように色々な角度から授業を進めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

課題グレードを達成した上で、そのグレード中から1曲選び試験で暗譜演奏する。複数の講師が採点し平均点を出す。平常点・達成点なども加味される。

4 授業改善の方法

個人授業なので個々の学生の特性を見て、初級とは違い中級らしい音楽的な表現に気付かせる事に重きをおきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 杉山 晋平 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教育方法の理論と実践 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 54101ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 71名 **回答者数** : 60名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	60	-	-	-	-	-	57	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.22						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.7%	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 11.7%	ほとんど していない 78.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.65						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 11.7%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 63.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 48.3%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 26.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.68						
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	4	4.33						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.48						

1 授業の概要、特徴等

教育方法をめぐる諸理論の特徴や歴史的背景、そして、情報通信技術の発達にともなう新しい教育方法の展開について、実践事例や教育実習等の経験と重ね合わせながら理解を深めていく。また、初等教育において核となる「子どもの主体性」という観点から、遊びと学びの関係性に注目して教育方法のあり方を学んでいく。

2 アンケート結果に対する見解

視聴覚教材や授業支援システムの効果的な活用を試みた点については、学生にとって実感できる学びとして一定成果が認められると考える。事前・事後学習については、他科目を含め年間を通じたカリキュラムと本科目とのかかわり、学生にとって意味を実感できる課題内容等、引き続き検討し改善に努めていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

2回生後期での開講ということも意識し、学生の実態に即して多面的な評価方法を導入した。個々の学生の理解度・到達度に大きなひらきが生じた点が課題であるが、2クラスとも最低限の授業目標は概ね達成されたとは考える。

4 授業改善の方法

各現場実習・他科目・社会活動等における学生の学習経験を把握した上で、それらをこの2回生後期の専門科目における学習活動へつないでいくという観点から、授業計画の見直しを続けていきたい。また、先述の通り、年間の学修サイクルに照応した効果的な事前・事後学習のあり方について慎重に検討していきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : こどもの食と栄養 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52131ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 73名 **回答者数** : 60名

回答者内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース			
	1	59	-	-	-	-	-	57	-	3

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.97		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 1.7%	90分程度 -	60分程度 3.3%	30分程度 11.7%	ほとんどしていない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど課していない	120分以上 1.7%	90分程度 -	60分程度 3.3%	30分程度 13.3%	ほとんどしていない 81.7%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.37		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 6.7%	やや高かった 36.7%	適切であった 56.7%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.27		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった 33.3%	注意していた 30.0%	ある程度注意していた 28.3%	あまり注意していませんでした 6.7%	全く注意していませんでした 1.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.05		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.46		■				

1 授業の概要、特徴等

こどもが健康に成長するためには日々の“食生活”の果たす役割が重要である。豊かな人間性を育て、生きる力を育み、健康な体と習慣をつくるための“食と栄養”について正しい知識を習得することを目的としている。保育士資格を目指す学生にとって、“食と栄養”という難しく、取り組みにくいイメージを与えてしまうため、穴埋め形式のプリントを用意し、大切な用語は埋めてもらえるよう工夫した。また、近年増加傾向にある「食物アレルギー」のこどもに対する理解の一環として、おやつを作る調理実習も取り入れ、学びやすい体制を整えた。

2 アンケート結果に対する見解

事前学習や事後学習(課題)を出すことがなかったので、学生の授業に対する意識が高まったとは言えない。しかし、プリントの準備や調理実習に対して感謝の気持ちを伝える学生がおり、教員が一工夫することで学生がより理解を深めてくれることがよくわかった。また、「食事バランスガイド」の解説も含めて学生自身の食生活の見直しにもつながったと思う。授業スタイルとしては教員からの一方通行になってしまい、それが「グループワークを授業に取り入れて欲しかった」という意見につながったと思う。15回の授業時間のなかで食の知識、乳児期・離乳期・幼児期の各期の特徴と解説、食育、健康と疾病、食物アレルギーなど伝えるべき内容が盛りだくさんなので、時間を作るのは難しいが、今後の検討課題としたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度、定期試験を主な成績評価基準とした。保育士資格必修科目であったため、定期試験前には対策講座を実施し、学習のポイントを伝えた。大半の学生が合格ラインに達した。しかし、8.2%の学生は追・再試験を実施した。

4 授業改善の方法

保育の現場で求められる要素は多岐にわたり、こどもの発達面を重視してしまいがちだが、「食べること」の大切さを実感してもらいたい。食品や栄養の話をする、学生は「知らなかったわ、へー、そうなんや」と興味を持つこともある。現場で調理をするわけではないが、栄養士や食に関わる職員の思いが伝わる・伝えられる“保育士”になってもらいたいと願っている。「食育」についての計画や模擬指導などに挑戦してもらえる授業展開をしていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 李 仙恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害者福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51020 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	18	-	-	-	-	-	16	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 -	30分 程度 38.9%	ほとんど していない 55.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 5.6%	60分 程度 5.6%	30分 程度 27.8%	ほとんど していない 61.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 27.8%	適切 であった 61.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.56		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 11.1%	注意 していた 77.8%	ある程度 注意 していた 11.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.35		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.56		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

本授業は障害の理解と障害者支援の基礎知識を習得することをねらいとし、障害者福祉の理念と歴史、各障害の理解、障害者虐待、障害者の所得保障、障害者総合支援法、障害者の就労支援等を学習する。とりわけ、本講義では、障害者を取り巻く問題について受講生が主体的に調べて検討し、プレゼンテーションする機会を設けた。

2 アンケート結果に対する見解

受講態度の結果に対する見解は、日常的に居眠りをする学生に対する注意が少し不足していた点と事前学習の課題が少なかつた点があったと思われる。総合評価の結果に対する見解は、学生がこの授業を受けて新しい知識や技術が得られ、自分の将来に役に立つと評価したのは、学生が主体的に調べるレポートの課題やプレゼンテーションの機会があったからだと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績の評価は出席状況、受講態度(30%)、レポート発表(40%)、定期試験(30%)から総合評価を行った。各授業に課されたコメントカードから授業の理解度や問題意識を評価し、レポート発表からプレゼンテーション能力や論理的思考や課題の達成度を評価した。加えて、定期試験を合わせて総合的に評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

当科目の授業内容、授業の進め方、総合評価は全体平均より高かったので、学生の理解が一層高まる授業にしていくように改善していく。受講態度に関しては居眠りに対する注意や携帯電話の使用に対する厳しい指導をしていきたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健B **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 60名 **回答者数** : 50名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	49	-	-	1	-	-	-	49	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	-	3.88		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 6.0%	90分 程度 2.0%	60分 程度 2.0%	30分 程度 8.0%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 6.0%	90分 程度 2.0%	60分 程度 2.0%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.0%	やや 高かった 36.0%	適切 であった 52.0%	やや 低かった 2.0%	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.98		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 16.0%	注意 していた 58.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった 2.0%	全く 注意して いなかった	無回答	2.0%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.94		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.80		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.27		■				

1 授業の概要、特徴等

小児期によくある健康問題を理解し、子どもの疾病とその予防法と対処法について学ぶ。小児保健とその課題について考え、保育者としての役割や機能を理解していく。

2 アンケート結果に対する見解

この科目の平均評価は全体の評価と比べると低い。しかし、総合評価において「この授業が自分の将来に役に立つと思っている」かの問いで「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した学生が約8割いたことは、授業の進め方や内容の精査を行っていく必要がある。パワーポイントの内容をプリントとして学生に提示し、内容を書き写すようにしたが、書く場所が小さかったようで書けないとの自由記述があった。また、情報をたくさん入れることで字が小さくなり、復習できないという自由記述もあった。教材の作成を検討する必要がある。自己学習はほとんど行っていない。このことは問題ではあるが、カリキュラムがつまっている中でどのように自己学習を促したらよいか悩むところである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

登録受講生は62名であったが、出席日数等の不足で無資格になったものが4名いた。成績評価は、16回目の定期試験と受講態度によって評価した。追再試験者が7名おり、特別指導を行い、追再試験を実施し、全員の単位認定が認められた。

4 授業改善の方法

プリント教材の検討 自己学習についての検討

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 中西 真 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童家庭福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51031・51031a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 70名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	62	1	-	-	-	-	63	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均	◇ 教員の自己評価					■ 学生の評価平均					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00	■					◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.2%	90分 程度 1.6%	60分 程度 14.3%	30分 程度 17.5%	ほとんど していない 63.5%	無回答	-	-	-	-	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.2%	90分 程度 3.2%	60分 程度 15.9%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 55.6%	無回答	-	-	-	-	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.05	■					◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 27.0%	適切 であった 60.3%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答	-	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.71	■					◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 7.9%	注意 していた 46.0%	ある程度 注意 していた 41.3%	あまり 注意して いなかった 4.8%	全く 注意して いなかった -	無回答	-	-	-	-	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.67	■					◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.78	■					◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.92	■					◇				

1 授業の概要、特徴等

「児童家庭福祉」は、主に保育士の取得を目指す学生(それ以外の学生も受講)を対象とした授業で、保育士養成の必修科目である。2016年度は、介護福祉士を目指す学生も数名受講した。目標は、児童家庭福祉の理念に基づき、少年非行、子育て支援などの実践が培われる背景、知識と実践的課題を説明できることである。授業では、学生自身が日常、実習等から得た知見を現場で実践できる力を養うために、映像資料で事例を視聴し、関連する文献等を基に背景や対応を考え、記述・発表する機会を作った。毎回、用紙の配布や授業中に学生の意見を聞き、授業に対する学生のニーズを把握して授業に還元した。2016年度も継続して、授業時間に学生を引率し、地域子育て支援センターでの見学を実施した。

2 アンケート結果に対する見解

本授業は、受講する学生の知識量・意欲・出席率に格差があり、また保育士の必修科目で教授内容が限定されるため、学生の理解度に応じた授業を行いにくい前提がある。さらに、授業日程、時間割の組み方が本来は、後期の週に1回、月曜日の3限、4限というのが基本だが、2016年度は、しばらく授業がない日が続いたと思えば、日によっては、1日何コマも授業を行う日もあり、学生が授業に集中しにくい条件が例年よりもあった。自由記述では、例えば「生活福祉コースの学生だけのクラスにして欲しい。地域こども学科の学生とは知識の量が違うため」などの回答もあり、学科ごとのクラス分けが学生に求められている。また、「グループワークも取り入れていただきたい」とあったが、今年度の授業でも後半にグループワークを実施している。これは、アンケート実施の機期的な問題が大きい。学科ごとに回答数に差があるので単純比較はできないが、今年は、クラスによって、②事前の勉強をほとんどしていない学生(生活未来科は33.3%、地域こども学科は59.5%、事後も同様の傾向)という差があった。このことが、教材が授業に役立つ項目でそう思う、ある程度そう思う、を合わせて、各学科で83.3%と73%という差、設問⑧、⑨、⑩でも10パーセントほどの差が生じる結果となった。今後も、学生に応じて自主的な学びを深められる取り組みをすることが継続した課題である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、児童家庭福祉の理念に基づき、児童虐待の防止、子育て支援などの福祉実践が培われてきた背景、法制度、歴史、等の知識と実践的課題を説明することである。成績評価基準は、最終講義日に実施するまとめと確認(40%)、授業態度(30%)、毎回行った授業内小レポート(30%)とした。また、学生の自主的な学びを目指して、今年度も提出を任意としたレポートを課して、多くの学生が行った。さらに、地域子育て支援センターを見学し、実践の理解とともに、当事者、専門家の思いを学生たちは実感した。単位認定は、学生が提出した小レポート、出席回数で受験資格を判断して実施した「まとめと確認」の結果に加え、毎回の受講態度を総合的に評価した。基準に満たなかった学生には再テストを行い、判断した。その結果、今年度も多くの学生が目標達成できた。

4 授業改善の方法

学生の知識量に格差がある「構造上の問題解消」として、知識と意欲の多寡でクラス分けの開講、もしくは事前受講しておく科目(保育、児童系科目)、条件の設定、②学生が集中できるよう、授業日程は、週に1回、1日に1クラス1コマの実施、③正確な情報を得るため、アンケートの時期はさらに授業の後半の日程での実施、を提案する。その理由として、正確な情報をアンケートで把握しないと授業改善につながりにくく、毎年、学生の理解に多様性があり、学生に意欲差があると教員が尽力してクラス運営をしても各々が不満を持つので、満足度の高い授業の実施は、個人の努力だけでは限界があるためである。教員個人では、今年度から改訂されたテキスト、映像資料をさらに考慮し、授業の流れを確認・練習も継続し、常に努力をしている。また、授業内容について、初学の人達や関連する教員の方々と意見交換を行い、授業検討会に参加し、研鑽し続けている。勉学の雰囲気は、クラスの雰囲気も継続し、学級の学級活動や学習秩序の維持を両立すると学びが向上するので、継続して留意している。これらの実施により、学生の自主的な学びをさらに促す授業に近づいていくと考える。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 杉島 尚徳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 総合演習(スポーツ) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 54201c **授業形態** : 演習 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	12	-	-	-	-	-	11	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.42		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 8.3%	90分 程度 -	60分 程度 8.3%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	2	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 16.7%	適切 であった 83.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 41.7%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.67		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.67		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.83		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業の目的は、付属生駒幼稚園協力の下、運動・スポーツを通じた保育者としての子どもとの関わりを実践的に学ぶことである。具体的な活動として、年間7～8回の付属生駒幼稚園園児の運動指導を学生が担当し、活動計画・実践・反省と考察を繰り返して授業を進めていく。上述した目的を達成するために、指導プログラムや指導技術だけでなく、「今、その時」必要とされる保育者としての援助の在り方を実践から学んでいく事を目指す。

2 アンケート結果に対する見解

前期アンケートにおいて評価の低かった総合評価⑨この授業を受けて新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高くなりましたか、という評価項目結果については一定の改善が見られたように思う。授業内容を見直したこともあるが、授業内外での学生への言葉かけや、個別に課題を設けるなどの個々への配慮が授業態度に影響したのではと推測される。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業の目的は、幼児期の運動遊びを豊かにするために必要とされる基本的な知識や技術の習得に向けて、幼児期の運動発達の特徴、運動指導を行う際に必要とされる補助の仕方、多様な動きが経験できるよう様々な運動遊びについて学習することである。成績評価基準としては、授業への参加姿勢が60%、課題及びレポートが40%とする。

4 授業改善の方法

前期に比べると後期のアンケート結果の数値は概ね一定の上昇が見られたが、これは担当教員とのラポールの形成が大きく影響していると感じた。次年度は、前期から個々へ積極的に関わり、学生が主体的に授業参加できるよう配慮をしたい。また前期に収集した運動指導場面の映像を用いた授業も、学生たちの省察を深めるうえで有効であった。次年度も継続的に活用を進めていく。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 藤田 悦代 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(環境) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53120ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 50名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	50	-	-	-	-	-	-	50	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.24		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.0%	90分 程度 4.0%	60分 程度 6.0%	30分 程度 12.0%	ほとんど していない 74.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.0%	90分 程度 4.0%	60分 程度 8.0%	30分 程度 16.0%	ほとんど していない 68.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.48		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 20.0%	やや 高かった 18.0%	適切 であった 62.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 20.0%	注意 してい た 56.0%	ある程度 注意 してい た 24.0%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.44		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.34		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.60		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

・教育・保育における環境について理解する。 ・子どもの育ちと環境とのかかわりについて学ぶ。 ・保育者の柔軟で適切な援助の在り方を知る。

2 アンケート結果に対する見解

子どもにとっての環境の意味、環境を通して成長・発達していく子どもの姿や環境とのかかわりから得られた内面の育ちなど、様々な事例をもとに考え、判断していけるよう、学生の理解度に配慮しながら進めていく。学生の思いや考えを出しやすい雰囲気づくりを行い、実習に生かせるように工夫する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・教育・保育における環境について説明できる。 ・子どもの育ちと環境とのかかわりについて説明できる。 ・保育者の柔軟で適切な援助の在り方を説明できる。

4 授業改善の方法

・テキストとプリント資料を併用しながら、反復授業や振り返りを行い、分かりやすい授業づくりを心がけ、学生の理解度を考慮しながら進めていく。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 別所 崇 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育相談支援 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53311ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 71名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	-	63	-	-	-	-	-	60	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.10		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 3.2%	60分 程度 7.9%	30分 程度 19.0%	ほとんど していない 68.3%	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 9.5%	30分 程度 19.0%	ほとんど していない 68.3%	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.32		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 3.2%	やや 高かった 36.5%	適切 であった 60.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.21		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かった 6.3%	注意 してい た 73.0%	ある程 度注 意し てい た 19.0%	あま り注 意し てい な かった 1.6%	全 く注 意し てい な かった -	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.19		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.10		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.43		■				

1 授業の概要、特徴等

この講義では、現代社会における子育てや保育の現状に鑑みて、保育者になる学生に知っておいてもらいたい、子ども理解・親理解について概説し、その上で保護者支援と気になる子どもへの支援に対して、前期配当科目の「相談援助」を前提として、より実際の援助方法を講義した。特に、講義担当者の経験を踏まえ、事例を多く提示し、学生が現場に出た際に、必要な知識を具体的に理解できるようにすることを目的とした。

2 アンケート結果に対する見解

前記の目的については、今回のアンケートの質問⑩において、受講学生の半数以上が「自分の将来に役立つ：そう思う」と回答していることから、ほぼ達成できたと言えるだろう。一方で、質問⑤において、受講学生の約40%が「この授業のレベルは適切であったか：非常に高かった・やや高かった」と回答していることは、反省点としたい。これに関しては、学外実習において、保護者との関わりは皆無に近く、講義での具体例が結びつきにくかったのではないかと考察している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

この講義の目標は、講義で学んだことを、今日における子育てや保育の現状を踏まえ、適切な子ども・保護者支援についての知識を得ることができるかということであった。それについては、講義内レポート及び期末レポートの内容を見ても、ほぼ達成できたと考えてよいだろう。しかし、成績評価基準の半分が授業への参加姿勢であったため、遅刻・欠席の多さや、遅欠時の課題未提出により、30%弱の学生が再試対象となったことは、残念な結果であった。最終的には受講学生全員を単位認定した。

4 授業改善の方法

授業改善については、学生の意見として「もっと全体を見てほしい」や「子どもの個性に合わせた支援」との回答があった。前者は、本年度の講義の多くは保育園・幼稚園における支援を対象としていたため、乳幼児期～青年期にかけての発達の全体像について知りたかった、という意見の可能性がある。これについては来年度の参考としたい。また後者については、講義で触れていた。また、全ての講義に言えることであるが、予習・復習の必要性を授業開始時に再度意識させたい。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 大高 千明 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・身体表現) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53161abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 59名 **回答者数** : 52名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	50	2	-	-	-	-	-	52	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.38		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.8%	90分 程度 -	60分 程度 3.8%	30分 程度 7.7%	ほとんど していない 84.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.8%	90分 程度 -	60分 程度 3.8%	30分 程度 7.7%	ほとんど していない 84.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.31		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 19.2%	やや 高かった 11.5%	適切 であった 67.3%	やや 低かった 1.9%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.63		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 28.8%	注意 していた 59.6%	ある程度 注意 していた 11.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.58		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.27		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.56		■				

1 授業の概要、特徴等

保育(表現・身体表現)の授業では、幼児期の身体表現活動についての基本的な知識や技能の習得を目指した。領域「表現」における身体表現の教育的意義や特性について講義形式で学習した後に、実技では、実際に自分自身の身体を動かしながら子どもの身体表現やその活動についての理解を深めた。このように、講義と実技を交えた授業形態であり、実技の中では学生同士のグループ活動を行った。実際に保育現場でよく用いられるリズム体操を幾つか習得しながら、学生たちでオリジナルのリズム体操を考案し、発表し合う時間を設けた点が特徴的である。

2 アンケート結果に対する見解

主に、教室や設備についてのコメントがみられた。具体的には、更衣室に冷暖房をつけてほしい、全身鏡があれば良い、リズム室があると良い、などである。授業開講が後期であったことから、更衣室の冷暖房設備についての意見があったが、特段必要ではないと考える。また健康スポーツ実習や体育よりも、運動量は少ない授業であったために、体育館で行うよりも、体育館の1/4程度の広さの教室で活動することも有意義であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成については、領域「表現」の目標とねらい、幼児期の身体表現の意義について習得できたと考える。またグループ発表を通じて、子どもの前でリズム体操を一緒に行う方法について実践する機会を設けることができた。成績評価基準としては、出席点、取り組む姿勢、グループ発表の完成度、レポート課題をもって評価した。それぞれについて点数化し、出席状況および課題提出を最低ラインとして単位認定とした。

4 授業改善の方法

グループ活動の取り組みや発表の成果は、グループを構成する学生に依存してしまうため、個人の成績評価に落とし込む際の基準をより明白にし、個人個人の活動意欲や姿勢を評価し損ねないように配慮する必要がある。また授業の中で、多数のリズム体操を提示したため、多様な動きや表現方法があることについては身体を動かしながら実感することができたと思えるが、一つのリズム体操について時間をかけて習得することはできなかったため、そのバランスを再考する必要があると考える。

教員による授業アンケート (2016年度 後期)

教員名 : 増井 啓子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・幼児造形) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53151abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 62名 **回答者数** : 47名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス					
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース			
	45	1	-	1	-	-	-	46	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.32		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 4.3%	90分 程度 -	60分 程度 4.3%	30分 程度 4.3%	ほとんど していない 87.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 4.3%	90分 程度 -	60分 程度 4.3%	30分 程度 4.3%	ほとんど していない 87.2%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.9%	やや 高かった 10.6%	適切 であった 74.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.48		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 27.7%	注意 していた 46.8%	ある程度 注意 していた 23.4%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 2.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.49		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.43		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.62		■				

1 授業の概要、特徴等

・幼児の生活や遊びとの造形活動のかかわりを考えると共に、造形面での発達段階を踏まえ、造形活動の楽しさや喜びを感じる環境及び援助の在り方について実践的な造形活動を通して理解する。 ・造形素材、用具、道具の扱い方、制作技術を学ぶと共に、保育者として造形技術を活かした豊かな感性を身に付ける。

2 アンケート結果に対する見解

高校では芸術は選択制になっているため、描いたり作ったりする造形表現は中学の時代に美術の経験をしただけで高校では全く造形表現の学習経験をもたなかった学生が多いという実態である。そのため、学生の中には漫画やイラストのキャラクターの表現はうまくできるが、物を見て自分の力で描くとか自分の思いや考えを形に現わすということになると苦手意識をもっている学生もいた。このような実態から表現活動を行う上で知識や技法よりも学生の意欲や関心が大きなウエイトを占めるため、誰もが楽しく表現活動ができるような教材(季節や行事を意識したテーマ等)を提示しながら授業を展開することを心掛けた。しかし、保育者として現場で造形活動の指導を進める上では、子どもの実態や環境に応じて臨機応変に活動のねらいや内容を組み立てなければならない。また、基本的な技術を持っていても創造性がなければならないと考える。そのため、授業では現場で役に立つ造形経験を調和的に構成するように努めた。学生アンケートの結果からすべての学生に造形表現に対する興味・関心を高めることができたという理解できる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

造形の基礎【表現に生かすいろいろな技法】材料経験【紙、粘土、自然素材、身近な素材等を生かした造形】幼児の造形表現の理解、幼児の造形表現の特質や発達の特徴、幼児画の見方など実技を中心とした総合的な表現力を目標とした。また、用具の準備から作品完成、提出、後片付けなど表現活動に臨む主体的な態度、心構えなども評価とした。おおよその目標は達成されたものと思われる。

4 授業改善の方法

授業担当としてはもう少し一つひとつの教材に対して時間をかけたいという思いと、より多くの材料経験や創作活動をさせたいという思いが残る。そこで、15回の学習内容についてさらに詳細に検討し、学生が無理なく理解し、技術や知識を習得できるように具体的な指導方法について検討をしていきたい。

